

病 防 第 6 6 5 号  
令和4年 12 月 21 日

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長  
( 公 印 省 略 )

### 病害虫発生予察特殊報について

令和4年度病害虫発生予察特殊報第1号を発表したので送付します。

### 令和4年度病害虫発生予察特殊報第1号

1 病 原 菌 : *Lisianthus enation leaf curl virus* (LELCV)

2 発 生 地 域 : 沖縄本島

3 発 生 作 物 : トマト

#### 4 発生確認の経緯

令和2年3月、沖縄本島南部(豊見城市、糸満市)の施設トマトにおいて、上位葉に黄化葉巻症状を呈する株がみられ、近畿大学がウイルス種の同定を行った結果、国内未発生のLELCVの感染が確認された。

本ウイルスは国内初確認であるため、令和4年11月に県全域を対象とした発生状況調査を行い、琉球大学農学部植物病理学研究室に同定を依頼した結果、沖縄本島南部(豊見城市)および北部(名護市)で発生が確認された。また、本県では本ウイルスと同様の黄化葉巻症状を引き起こす *Tomato yellow leaf curl virus* (TYLCV) が平成18年12月に確認されており、本調査のLELCV陽性株は全てTYLCVとの複合感染であった。

なお、沖縄県において、本ウイルスの単独感染による直接的な農業被害は確認されていない。

#### 5 病 徴

生長点付近の上位葉に黄化、葉巻、萎縮の症状が現れ(図1、2)、生育不良となり収量が低下する可能性がある。

#### 6 病原菌の特徴と伝搬方法

(1) 本ウイルスはベゴモウイルス属に属する。同属の他ウイルスと同様にタバココナジラミ(図3、4)により媒介される可能性が高い。汁液伝染、種子伝染、土壌伝染は確認されていない。

(2) 媒介虫は、罹病植物を吸汁することで病原ウイルスを保毒し、一度ウイルスを獲得すると永続伝搬能力を持つ。経卵伝染は確認されていない。

(3) 本ウイルスは、トマト、トルコギキョウ、カボチャ、ピーマン、トウガラシで感染が確認されている。

#### 7 防除対策

トマト黄化葉巻病の病徴が見られる株は、二次伝染源となるため早急に抜き取り処分する。抜き取った株は放置せず、ビニール袋に入れるなどして密閉処分する。また、ウイルスは

一度感染すると治癒しないことから、以下のとおり媒介虫タバココナジラムの防除対策を主に行う。

- (1) 栽培初期に発生すると多大な被害を出すため、育苗期・定植期の防除を徹底する。
- (2) 施設では侵入防止のため、開口部に 0.4 mm以下の目合いの細かい防虫ネットを使用し、出入口は二重カーテンを展張する。
- (3) 多発すると防除が困難になるため、黄色粘着板等を用いて早期発見に努め、発生を確認したら直ちに薬剤防除を行う。また、薬剤抵抗性を発達させやすいため同系統薬剤の連用を避ける。
- (4) 管理されていない施設内外のトマトおよびミニトマトは、発生源となるため除去する。また、本種は多くの雑草に寄生するため、ほ場内および周辺の除草に努める。
- (5) 施設では、栽培終了後に蒸し込みし、トマトが完全に枯死したのを確認して処分する。



図1. TYLCV と LELCV の複合感染症状



図2. TYLCV の症状



図3. 媒介虫のタバココナジラム幼虫



図4. 媒介虫のタバココナジラム成虫

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL : (本所)098-886-3880、(宮古駐在)0980-73-2634、(八重山駐在)0980-82-4933

ホームページアドレス: <http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichujojo/index.html>